

丹沢山地におけるアザミ属の自然雑種

高 橋 秀 男

Natural Hybrids between the Species of *Cirsium* from the Tanzawa Mountains

Hideo TAKAHASHI

フジアザミは関東、中部地方に分布域をもつ日本固有種で、頭花は幅 8.5 cm、葉は厚く長さ 60 cm にも達する巨大なアザミである。県内では丹沢・箱根山地に分布し、普通は海拔 400 m 以上に生え、しばしば中津川の河川敷(海拔 70~90 m)のような低海拔地にも見られる。箱根には生育地は少ないが、丹沢山地では 1928 年の関東大震災によってできた崩壊地が各所にあり、フジアザミ、ヤマホタルブクロ、バライチゴなどの土砂の堆積に耐えられるような種類で構成される多年生草本や小低木の植被が見られる。なかでも秋はフジアザミが大群落をなし、一際目だった景観をつくりだしている。

筆者は 1983 年 9 月に丹沢山でフジアザミとホソエノアザミとの雑種、1984 年 10 月には西丹沢の西沢でフジアザミとアズマヤマアザミとの雑種を見いだした。いずれも今まで記録されていないと思われるので報告することにした。日本産アザミ属のなかでは最も大きな頭花を持つフジアザミと最も小形に属するホソエノアザミやアズマヤマアザミとの間に出来た雑種と言う点で興味深い課題を抱えている。フジアザミの自然雑種については、タイアザミとの雑種・ミサワアザミが 1933 年、中井猛之進によって、日光から報告され、県内では丹沢山地の道志川流域より報告されている。最近、北村四郎(1986)は岐阜県下で、フジアザミ×サワアザミ、ホックアザミ×フジアザミの 2 新雑種を報告している。

フジアザミ×ホソエノアザミ・タンザワアザミ(新称) *Cirsium purpuratum* (MAXIM.) MATUM. × *C. effusum* (MAXIM.) MATUM.

丹沢山へ調査に入るには、堂平入りの車道終点(1000 m)よりヒノキの植栽されている県有林を経て、セドノ沢を横切り、ブナの立ち並ぶ急坂を頂上に達す

る。セドノ沢は崩壊が著しく、現在砂防用の堰堤の工事中であったが、沢の崩壊斜面には毎年秋にフジアザミの大群落が見られる。1983 年 9 月にフジアザミ群落を写真撮影中に、フジアザミに混じって小形の頭花をもつ個体が点在しているのを見出した。崩壊地の周辺にはホソエノアザミが生育しているのを見ていたので、その雑種であることはすぐに解った。そこで雑種群を採集してきて、丹沢産のフジアザミ及びホソエノアザミとの外部形態の比較を試みたところ、表 1 のような結果が得られた。この表で解るように雑種群は全ての形質において、両種の中間的な形態を持っている。頭花の着き方はフジアザミに似て、花柄は長く伸び、先に 1~2 花を着けるものからホソエノアザミ的に細い花柄の先に多数または少数の頭花を着けるものがある。雑種群は一般に葉の刺が長く著しく、総苞は紅紫色で、片は縁辺に刺を列生する。果実は不稔だがまれに成熟するものを見かける。ホソエノアザミは神奈川、静岡、山梨、東京などの各都県に分布しているので、両種が同所的に生育しているところでは今後雑種が発見される可能性がある。

フジアザミ×アズマヤマアザミ・フジアズマヤマアザミ(新称) *Cirsium purpuratum* (MAXIM.) MATUM. × *C. microspicatum* NAKAI

西丹沢中川川の支沢である西沢は、著しい隔離分布をするヤシャイノデの自生地として知られ、1984 年 10 月にその生育状態の調査を、神奈川県植物誌調査会の長谷川義人氏らとともに実施した。その帰途、西沢の川辺や林縁にアズマヤマアザミが、河川敷にはフジアザミの群生しているところがあったので、雑種の生育を予想して探したところ、フジアザミに混生しているアズマヤマアザミとの雑種を数個体見いだすことができた。雑種とその両親を比較したのが表 2 であるが、

前雑種と同様に両種の間間的な形態を持っていることがわかる。頭花の着き方はアズマヤマアザミに似て、花柄の短いものから、花柄が長く伸び先に大きな頭花を1個着けるフジアザミ的なものなど変化は多い。雑種群は一般に葉の刺が著しく、また頭花の数も少なく総苞は赤紫色を帯びる。総苞片の縁辺に刺を列生することはフジアザミの形質を受け継いでいる。果実は大部分は不稔であるが、ときに成熟しているものが見られる。アズマヤマアザミは関東地方から鈴鹿山脈まで分布するので、関東地方でフジアザミとアズマヤマアザミと 同所的に生える所では 今後発見の 可能性があ

る。

文 献

北村四郎 1933 *Compositae Novae Japonicae* 6
植物分類地理, 2: 175.
KITAMURA, S. 1937 *Compositae Japonicae*. Mem.
Coll. Sci. Kyoto Univ. ser. B, 1: 130.
北村四郎 1986 岐阜県飛騨のアザミの自然雑種. 植
物分類地理, 37: 57—58.
大井次三郎 1975 改訂増補新版 日本植物誌. 東京
(神奈川県立博物館)

表1 フジアザミとホソエノアザミ及びその雑種群との外部形態の比較

種 名 形 質	フ ジ ア ザ ミ	フジアザミ×ホソエノアザミ (タンザワアザミ)	ホ ソ エ ノ ア ザ ミ
根出葉の有無	花期に宿存する。	花期に宿存するかまたは枯れて 無い個体がある。	花期に枯れて無い。
根出葉または 茎の下部の葉	羽状に中裂し、裂片は5 ～7対、縁辺は長さ2～ 7mmの刺がある。裏面は 灰白色。	羽状に深裂し、裂片は7～8対、 縁辺の刺は著しく、長さ5～15 mmで硬く太い。裏面は淡色また は白い。	羽状に深裂し、裂片は8 対、縁辺は長さ5～10mm の太い刺がある。裏面は 淡色。
花 柄	太く長い花柄がある。	やや太く長い花柄か、または短 い花柄がある。	短く細い花柄があるか、 または無い。
総 苞	扁球形 幅65～85mm	鐘形 幅12～30mm	狭い筒形 幅8～20mm
総 苞 片	中部付近で幅5～9mm、 縁辺は長さ0.5～3mmの 硬く太い刺を列生する。 片は反り返り、先は長さ 3～4mmの刺が着く。く も毛は無い。	中部付近で幅2～3mm、縁辺は 0.5～3mmの刺を列生する。片 は反り返り、先は長さ2mmほ どの刺が着く。縁辺はくも毛があ るか、または無い。	中部付近で幅1～2mm。 縁辺は普通は刺が無いが、 ときに1～2個の小さな 刺がある。片は反り返り 先は長さ1mmほどの刺が 着く。縁辺はくも毛があ る。
花 冠	長さ23～29mm	長さ17～22mm	長さ17～18mm
冠 毛	長さ21～22mm	長さ17～18mm	長さ15mm
果 実	長さ4mm	長さ4mm	長さ3mm

表2 フジアザミ、アズマヤマアザミ及びその雑種群との外部形態の比較

種名 形質	フジアザミ	フジアザミ×アズマヤマアザミ (フジアズマヤマアザミ)	アズマヤマアザミ
根出葉の有無	花期に宿存する。	花期に枯れて無い。	花期に枯れて無い。
根出葉または 茎の下部の葉	羽状に中裂し、裂片は5～7対、縁辺は長さ2～7mmの刺がある。裏面は灰白色。	羽状に浅～中裂し、裂片は5～6対、縁辺は刺が著しく、長さ6～20mmある。裏面は白い。	羽状に浅～中裂し、裂片は4～5対、縁辺は長さ4～7mmの刺がある。裏面は淡色。
花柄	太く長い花柄がある。	花柄は短い、または無く、ときに長い花柄がある。	花柄は普通は無い。
総苞	扁球形 幅65～85mm	鐘形 幅15～35mm	狭い筒形で上部は少し細くなり、幅8～12mm
総苞片	中部付近で幅5～9mm、縁辺は長さ0.5～3mmの硬く太い刺を列生する。片は反り返り、先は長さ3～4mmの刺が着く。くも毛は無い。	中部付近で幅2.5～3mm、縁辺は0.5mmほどの刺を列生または1～2個着ける。片の先は長さ2～3mmの刺が着き、多くは反り返るが、ときに直立する。縁辺または背面はくも毛がある。	中部付近で幅1.0～1.5mm、は縁辺刺が無く著しいくも毛に被われる。片の先は0.5mmほどの刺が着き、反り返らない。
花冠	長さ23～29mm	長さ20～25mm	長さ17～18mm
冠毛	長さ21～22mm	長さ18mm	長さ14～15mm
果実	長さ4mm	長さ4mm	長さ3mm

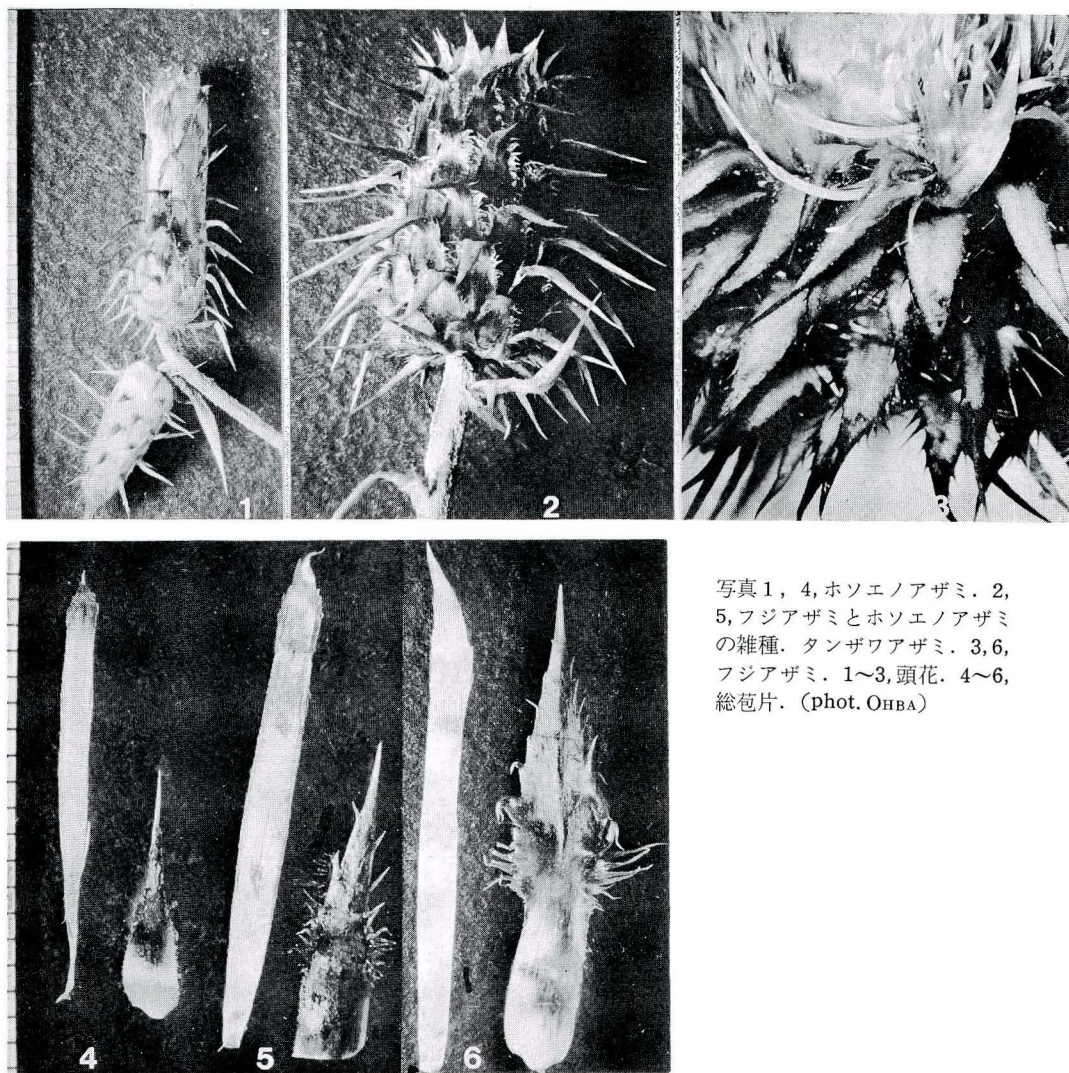


写真1, 4, ホソエノアザミ. 2, 5, フジアザミとホソエノアザミの雑種. タンザワアザミ. 3, 6, フジアザミ. 1~3, 頭花. 4~6, 総苞片. (phot. OHBA)